

# SYLLABUS

2024



別府市医師会立別府青山看護学校

3年課程

# 専門分野 授業計画

専門分野は、基礎看護学、地域・在宅看護論、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、看護の統合と実践、看護学領域別の臨地実習を基本の領域とし、それぞれに科目を設定しています。また、各領域と密接な関係をもつ7つの領域横断科目を設定しています。総計53科目（66単位）で構成しています。

基礎看護学は、総計9科目（11単位）で構成し、看護の基礎的理論や安全で安楽な看護を提供するための基本的看護技術、看護の展開方法を学びます。また、専門基礎分野の知識を活用して科学的根拠に基づいた看護実践を導くために、患者を想定したシミュレーション演習を多く取り入れながら、気づきを看護専門職の臨床判断につなげるための授業を展開していきます。

地域・在宅看護論は、総計5科目（5単位）で構成し、地域で生活する人々とその家族を理解し、地域における様々な場で多職種と連携・協働しながら看護を実践するための能力を養うための基礎を学び、実習は地域に暮らす人々の様々な活動の場、生活の場で展開します。少子・高齢社会の進展とともに需給が増している看護師の役割が期待される分野です。

成人看護学5科目（5単位）、老年看護学3科目（3単位）、小児看護学3科目（3単位）は、発達段階別の看護に加え治療が必要な人々に対する看護を健康段階別に学ぶ領域です。講義をとおして成長発達を理解し、様々な発達段階・健康状態にある人々に対する看護の方法を学び、実習をとおして看護実践能力につなぎます。さらに、実習をとおしては、安心・安全を保障する援助の実践を積み重ねます。

母性看護学3科目（3単位）では、女性のライフサイクルの健康に対応する能力を養います。また、実習ではマタニティサイクル期にある母子とその家族を総合的に理解し人間の生命の誕生と尊厳について考え、人間をかけがえない存在として理解していくための過程をたどります。

精神看護学3科目（3単位）では、精神機能に対応する能力を養うための知識を深めます。実習をとおしては、対象との関係を丁寧に振り返り、自分自身の行動が対象に与える影響について深く考え自分の傾向を見つめていきます。これらの過程をとおして援助的人間関係や治療的コミュニケーションについて学びを深めていきます。

看護の統合と実践は3科目（3単位）で構成し、医療安全をはじめチーム医療における看護マネジメントや多職種と連携・協働するための基礎的知識と実践力を身につけます。いよいよ看護師として活躍する直前の重要な科目です。

また、各看護学において共通する7科目（7単位）の領域横断科目を設定し、包括的、継続的な看護を展開するための知識を身につけます。領域横断科目は、看護師独自の専門性をもつ判断力や多職種と連携・協働する力を身につけるために欠かせない科目となります。

各看護学領域の臨地実習は総計12科目（23単位）で構成し、講義で学んだ知識・技術・態度を実践の場で活かし理論と実践を結びつけます。看護の対象を前に展開する実習は看護師としても、人としても成長できる貴重なものとなります。

実習をとおして理論と実践を統合した後に履修する地域・在宅看護論Ⅳでは、事例をとおして人々が住み慣れた地域で暮らすための多職種と連携・協働にある支援についてまとめます。同じく、看護実践演習では複雑な状況下での看護場面を想定した演習をとおして看護実践力に導き、3年間の学びをまとめ看護師国家試験に臨みます。

## 専門分野を構成する領域

基礎看護学
領域横断
地域・在宅看護論
成人看護学
老年看護学
小児看護学
母性看護学
精神看護学
看護の統合と実践
臨地実習

# 臨地実習

科目区分	専門分野	科目名	基礎看護学実習 I	単 位	1 単位
対象学年	1 学年	学 期	後期	時 間	45 時間
担当教員	岡部 裕美	実務経験 関連資格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	病院や病室の機能や構造の説明や見学、または受け持ち部屋の患者とのコミュニケーションをとおして患者の思いを知るにより、その患者にとっての快適な療養環境を整える。また、実習体験と看護活動の見学・説明により、その意味を考える。				
目 標	1. 病院・病棟・病室環境を知り、療養生活を整えることで、患者の生活を理解することができる。 2. 患者との関わりを通して患者の思いを知ることができる 3. 病棟看護師の看護活動を見学し、その意味を考えることができる。 4. 自分の役割を果たすことができる。 5. 自己の課題解決に向けて主体的に学習ができる。				DP への対応
					DP 1・2・3・4 DP 1・2 DP 3・4 DP 5 DP 6
概 要	・病院の組織・構造・機能、看護の機能と役割について見学及び説明を受け理解する。 ・看護師と共に行動し、看護活動の実際を理解する。				
方 法	病棟単位に実習を行う				
実習場所	国立病院機構西別府病院 九州大学病院別府病院				
成績評価の基準と方法		基準 : 履修規定第 29 条に規定する評価基準に準ずる。 方法 : 別に評価項目を定め、それに沿って評価する。 60 点以上が合格、60 点未満は別紙に定めるとおり再実習を行う。			
使用教材	テキスト	看護学概論(医学書院)、基礎看護技術 I・II(医学書院)			
	参考図書				
	その他				
臨地実習以外の学習方法		実習に必要な事前学習にしっかりと取り組みましょう。			
履修上の留意点		これまで学んできた知識、技術を復習し、実習の中で使えるようにしましょう。 看護の基礎となる実習です。実習の中での「気づき」を今後につないでいきましょう。 実習は、メンバー、指導者、教員の力を大いに活用しましょう。			

科目区分	専門分野	科目名	基礎看護学実習Ⅱ	単 位	2単位
対象学年	2学年	学 期	前期	時 間	90時間
担当教員	岡部 裕美 芦刈 美佳	実務経験 関連資格	病院における看護師経験・別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	対象に必要な日常生活援助は何かを考え、療養生活を整える援助を理解する実習である。「日常生活援助技術」は、病気や障害、加齢や幼弱などの理由から自力では日常生活に支障をきたす患者に対して、健康状態を理解し、必要度に応じた支援を行う技術である。具体的には、生活・療養環境を整え、身体の清潔を保ち、適切な衣服を選んで更衣・整容を行い、食事や排泄をし、休息・睡眠をとり、姿勢を保ったり体位を変えたり移動・移乗したりすることへの援助技術である。援助の実践ではコンセプト学習による臨床判断の思考過程についても学習する。今患者に不足している基本的ニーズは何か、必要としている援助は何かを見出し、患者に合った日常生活援助を、安全・安楽を踏まえて実施し、個別を配慮し、自立を促す方法で考え、実習指導者の指導の下実施することを目的とする。				
目 標	1. 受け持ち患者とコミュニケーションを図ることができる。 2. 受け持ち患者の健康状態を知り、療養環境や日常生活について理解できる。 3. 受け持ち患者に必要な日常生活援助を安全・安楽・自立に向けて、援助ができる。 4. 自分の役割(メンバーシップ)を果たし、他者を支援できる。 5. 受け持ち患者の基本的ニーズを充足するための看護について説明できる。 6. 看護実践を振り返り、自己の課題解決に向けた学習ができる。			DP への対応 DP1 DP2・3 DP2・3 DP2・3・5 DP3・4 DP6	
概 要	・受け持ち患者を1名担当し、患者に必要な日常生活援助を指導者とともに実施する。 ・コミュニケーションをとって良好な人間関係を図る。 ・自分の言動に責任を持つ。 ・看護実践のなかでの「気づき」から、援助の意味を考える。				
方 法	病棟単位に実習を行う 受け持ち患者を1名担当し、援助を考える。				
実習場所	国立病院機構西別府病院 九州大学病院別府病院				
成績評価の基準と方法	基準：履修規定第29条に規定する評価基準に準ずる。 方法：別に評価項目を定め、それに沿って評価する。 60点以上が合格、60点未満は別紙に定めるとおり再実習を行う。				
使用教材	テキスト	看護学概論(医学書院)、基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ(医学書院)			
	参考図書				
	その他				
臨地実習以外の学習方法	実習に必要な事前学習にしっかりと取り組みましょう。				
履修上の留意点	これまで学んできた知識、技術を復習し、実習の中で使えるようにしましょう。 看護の基礎となる実習です。実習の中での「気づき」を今後につないでいきましょう。 実習は、メンバー、指導者、教員の力を大いに活用しましょう。				

科目区分	専門分野	科目名	基礎看護学実習Ⅲ	単 位	2 単位
対象学年	2 学年	学 期	後期	時 間	90 時間
担当教員	川野 明子	実務経験 関連資格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	医療機関で健康障害によって入院治療を受けている患者を 1 名受け持ち、看護過程を展開する基礎的な能力と看護職者としての自覚を培う。具体的には日常生活援助技術を用いて患者の生活を整えながら、看護に必要な情報収集を行う。情報はゴードンの看護アセスメントの視点に基づいて分析され、導き出した看護問題を解決するための援助を計画に基づいて実践する。また、実践した自らの看護を振り返ることで、個別性に応じた援助と看護職者にふさわしい態度や学習姿勢について学ぶ。				
目 標	1. 看護に必要な情報収集、アセスメント、看護問題の特定、看護計画の立案、実施、評価ができる。 2. 看護過程の実践を通して、看護職者としてふさわしい態度を身につけることができる。 3. 患者との関りを通して、患者の療養生活と看護のつながりについて考えることができる。				DP への対応
					DP3 DP1・2・3・4 DP1・2・3・5・6
概 要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受け持ち患者を 1 名担当し、看護過程を展開する。</li> <li>・看護実践の中の「気づき」を活用し、援助に反映できる。</li> <li>・看護チームの一員であることを自覚し、責任ある行動をとる。</li> </ul>				
方 法	病棟単位に実習を行う 受け持ち患者を 1 名担当し、看護を考える。				
実習場所	国立病院機構別府医療センター 国立病院機構西別府病院				
成績評価の基準と方法		基準 : 履修規定第 29 条に規定する評価基準に準ずる。 方法 : 別に評価項目を定め、それに沿って評価する。 60 点以上が合格、60 点未満は別紙に定めるとおり再実習を行う。			
使用教材	テキスト	看護学概論(医学書院)、基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ(医学書院)			
	参考図書				
	その他				
臨地実習以外の学習方法		実習に必要な事前学習にしっかりと取り組みましょう。			
履修上の留意点		これまで学んできた知識、技術を復習し、実習の中で使えるようにしましょう。 看護の基礎となる実習です。実習の中の「気づき」を今後につないでいきましょう。 実習は、メンバー、指導者、教員の力を大いに活用しましょう。			

科目区分	専門分野	科目名	地域・在宅看護論実習 I	単 位	2 単位
対象学年	1 学年	学 期	前期	時 間	90 時間
担当教員	木畑 孝子	実務経験 関連資格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	地域の様々なライフステージにある多様な人々の日々の生活を知り、人々の健康上の課題や人々の暮らしを支えるものについて理解する。また、看護の道への学習意欲を高め看護学生として学ぶべきことを明確にする。				
目 標	1. 地域に暮らす人々と、適切な言葉遣いと内容でコミュニケーションを図る。 2. 地域に暮らす多様な人々の日々の活動を理解する。 3. 地域に暮らす多様な人々の健康上の課題を理解する。 4. 地域住民の健康な暮らしを支える人々の活動を理解する。 5. 看護学生としての自覚をもち、責任ある行動をとる。 6. 看護を学ぶ目的と課題を明確にし、自分の将来像を描く。				DP への対応 DP1 DP2・3・4 DP2・3・4 DP2・3・4・5 DP4 DP6
概 要	入学後早期の5月末から6月はじめに設定し、医療・看護における知識がほとんどない状態で臨む見学を中心とした実習である。本実習では、地域の人々が生活する様々な場に足を運び、人々の生きるための活動、生活を支えるための活動を知ることで、地域に暮らす人々が支え合いの中で生きていることを、五感をとおして感じながら人々の暮らしについて想像し、看護の対象として意識していくことをねらいとしている。同時に、様々な活動の場で展開する実習はグループで計画・行動することを基本としながら自ら考え行動できる力を養い、今後の学習や学校生活を送るために必要な協調性や主体性を身につけるための導入となること、人々の健康な暮らしを支える看護への期待を膨らませ看護を学ぶ目的を明確にすることを期待している。				
方 法	臨地実習（見学実習）・学内実習				
実習場所	別府市内自治会・老人クラブ等各種団体（別府市 健康推進課） 児童館・子育て支援センター ・北部児童館・西部児童館・子育て支援センター・南部児童館・子育て支援センター 社会福祉協議会 別府市医師会地域保健センター 別府市内診療所 ・岡田眼科医院・かめがわ耳鼻咽喉科・矢田子どもクリニック・おおさわクリニック・岡島医院 ・佐藤整形外科医院・平井整形外科医院 別府市内病院 ・内田病院・児玉病院・別府中央病院・村橋病院				
成績評価の基準と方法	基準：履修規定第29条に規定する評価基準に準ずる。 方法：別に評価項目を定め、それに沿って評価する。 60点以上が合格、60点未満は別紙に定めるとおり再実習を行う。				
使用教材	テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論（医学書院）			
	参考図書				
	その他	講義資料			
臨地実習以外の学習方法					
履修上の留意点	地域にある人々の生活の場で展開される実習です。気持ちのよい挨拶をはじめとし、基本的な姿勢・態度には十分心がけ実習に臨みましょう。				



科目区分	専門分野	科目名	地域・在宅看護論実習Ⅱ	単 位	2単位
対象学年	3学年	学 期	後期	時 間	90時間
担当教員	木畑 孝子 安部 三枝子	実務経験 関連資格	病院における看護師経験・別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	地域で療養する人々とその家族の多様な生活を理解し、地域において看護を実践するための基本的な知識・技術・態度を身につけること、また、(医療や介護が必要な)人々が可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを、人生の最期まで続けることができるための包括的な支援や看護の役割について深く考えることを目的とする。				
目 標	1. 在宅で療養する人とその家族・周囲の人々と良い人間関係を築く。 2. 地域で療養する人とその家族・周囲の人々の様々な価値観を知り、個別に応じた看護を実践する。 3. 在宅で療養する人とその家族の望みを尊重し、科学的根拠に基づいた看護を実践する。 4. 在宅で療養する人とその家族の暮らしを支える多職種との連携・協働の必要性と看護師の役割を理解する。 5. 在宅で療養する人とその家族が望む暮らしを実現するために必要な法律・制度を理解する。 6. 専門職業人としての倫理や責務について考え、すべての人々に対して誠実な態度で接する。 7. 看護職としての将来像を描く。				DPへの対応 DP1 DP2・3 DP2・3 DP5 DP3 DP4 DP6
概 要	3年次の9月～10月と看護学校3年間の集大成となる時期に位置づけている。講義や実習をとおして培ってきた知識・技術を応用し、居宅(在宅)や施設で療養する人とその家族の看護、住み慣れた地域や居宅(在宅)での暮らしを実現するための地域包括ケアシステム、システムの中で活躍する多職種の連携の実際を学び、その過程をとおして、自助・互助・共助・公助の観点から人々の生活を幅広く理解し、専門職としての看護師の役割を明確に自覚していくことをねらいとしている。人は、地域で生まれ、地域で最期の時を迎える、人々の暮らしは地域にあり、その暮らしは人と人とのつながり、支え合いによって成り立っていることを理解していく中で、いのちの尊厳、人々の価値観や望む暮らし、自己の価値観に新たな気づきを得ること、看護師としての姿勢・態度について改めて考える実習となることを期待している。				
方 法	臨地実習				
実習場所	別府市内・外訪問看護ステーション 別府市地域包括支援センター 高齢者福祉施設				
成績評価の基準と方法	基準：履修規定第29条に規定する評価基準に準ずる。 方法：別に評価項目を定め、それに沿って評価する。 60点以上が合格、60点未満は別紙に定めるとおり再実習を行う。				
使用教材	テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論(医学書院)			
	参考図書				
	その他	講義資料			
臨地実習以外の学習方法					
履修上の留意点	気持ちのよい挨拶をはじめとし、基本的な姿勢・態度には十分心がけ実習に臨みましょう。また、地域・在宅看護論実習Ⅱは、基本的な看護技術の応用の極みとなります。安全・安楽な援助を提供するために十分な学習・練習をしてから実習に臨みましょう。				

科目区分	専門分野	科目名	成人・老年看護学実習 I	単 位	2 単位
対象学年	3 学年	学 期	前期	時 間	90 時間
担当教員	小林 恭子	実務経験 関連資格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	健康レベル別に見た急性期における看護を学ぶ。病態や症状が急激に変化した状態の患者や、手術を受ける患者、検査を受ける患者を受け持ち、治療や看護によって回復に向かう患者を身体的・精神的・社会的側面から理解していく。看護を展開する中で、患者に必要な援助を考え、良い方向に向かうことができるよう看護を実践する。				
目 標	1. 急性期（周術期）にある対象の特徴を理解できる。 2. 急性期（周術期）にある対象が危機的状況から回復する過程に応じた看護過程の展開ができる。 3. 医療チームの中で多職種と協働・連携について理解できる。 4. 実習体験を通して、自己の看護観を述べることができる。 5. 看護者として、対象への倫理的配慮ができ、医療チームの一員として、責任ある行動をとることができる。				DP への対応 DP1・2・3  DP1・2・3 DP5 DP6  DP4
概 要	急性期にある対象とその家族を理解し、健康回復に向けた看護を実践するための基礎的能力を習得する。				
方 法	臨地実習・学内実習				
実習場所	中村病院 別府医療センター 九州大学病院別府病院 新別府病院 大分医療センター				
成績評価の基準と方法	基準：履修規定第 29 条に規定する評価基準に準ずる。 方法：別に評価項目を定め、それに沿って評価する。 60 点以上が合格、60 点未満は別紙に定めるとおり再実習を行う。				
使用教材	テキスト				
	参考図書				
	その他				
臨地実習以外の学習方法					
履修上の留意点					

科目区分	専門分野	科目名	成人・老年看護学実習Ⅱ	単位	2単位
対象学年	3学年	学期	前期	時間	90時間
担当教員	岡部 裕美 岩坪 さより	実務経験 関連資格	病院における看護師経験・別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目的	治療が終了、または治療を続ける中で身体の状態が安定してきた慢性期にある患者の看護を展開する。成人期・老年期にある患者の健康の維持増進、疾病悪化や予防を踏まえたセルフケア獲得と、生活の再構築に向けた援助について学ぶ。				
目標	1. 慢性期にある対象と良好な援助的関係を構築できる。 2. 慢性期にある対象がその人らしく生活を営むための看護ができる。 3. 慢性期にある対象の生活の再構築に向けた支援における看護職または多職種との連携・協働について理解できる。 4. 医療チームの一員として、責任ある行動をとることができる。 5. 看護実習を振り返り、自己の課題を明確にすることができる。				DPへの対応
					DP1・2 DP1・2・3・4 DP3・4 DP5 DP6
概要	治療が終了、又は治療を続ける中で身体の状態が安定してきた慢性期にある患者の看護を展開する。その中で、患者の身体機能やより良い生活が向上するための援助を考え実践し、患者が健康な生活を取り戻していく過程を支援する看護の役割について考える。				
方法	臨地実習・学内実習				
実習場所	別府医療センター 九州大学病院別府病院 大分医療センター 中村病院 新別府病院				
成績評価の基準と方法		基準：履修規定第29条に規定する評価基準に準ずる。 方法：別に評価項目を定め、それに沿って評価する。 60点以上が合格、60点未満は別紙に定めるとおり再実習を行う。			
使用教材	テキスト				
	参考図書				
	その他				
臨地実習以外の学習方法					
履修上の留意点					

科目区分	専門分野	科目名	成人・老年看護学実習Ⅲ	単 位	2単位
対象学年	3学年	学 期	前期	時 間	90時間
担当教員	服平 敏枝 塩田 和泉	実務経験 関連資格	病院における看護師経験・別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	治療を尽くしても回復の見込みが難しい患者や、病気が末期の状態にあり、いよいよ最後の時を迎えようとしている患者の受け持ち看護を展開する。患者が気持ちよく、その人らしく、満足した日々を送ることができるような援助を考え実践する中で、命の可能性と命の尊厳、そして限りない看護の可能性について考える。				
目 標	1. 終末期にある対象の特徴を理解できる。 2. 終末にある対象が満足した生活を送るための看護過程の展開ができる。 3. 医療チームの中で多職種と協働・連携について理解できる。 4. 実習体験を通して、自己の看護観を述べるができる。 5. 看護師として、対象への倫理的配慮ができ、医療チームの一員として、責任ある行動をとることができる。				DP への対応 DP1・2・3 DP1・2・3 DP5 DP6 DP4
概 要	治療を尽くしても回復の見込みが難しい患者や、病気が末期の状態にあり、いよいよ最後の時を迎えようとしている患者を受け持ち看護を展開する。患者が気持ちよく、その人らしく、満足した日々を送ることができるような援助を考え実践する中で、命の可能性と命の尊厳、そして限りない看護の可能性について考える。				
方 法	臨地実習・学内実習				
実習場所	中村病院 村橋病院 別府中央病院 九州大学病院別府病院 鶴見病院 緩和ケア病棟				
成績評価の基準と方法	基準 : 履修規定第29条に規定する評価基準に準ずる。 方法 : 別に評価項目を定め、それに沿って評価する。 60点以上が合格、60点未満は別紙に定めるとおり再実習を行う。				
使用教材	テキスト				
	参考図書				
	その他				
臨地実習以外の学習方法					
履修上の留意点					

科目区分	専門分野	科目名	小児看護学実習	単 位	2単位
対象学年	2～3学年	学 期	後期～前期	時 間	90時間
担当教員	羽田野 京子	実務経験 関連資格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	小児期にある子どもとその家族を理解し、成長・発達段階、健康段階に応じた看護を実践するための基礎的能力を習得する。				
目 標	1. 子どもの成長・発達および健康障害に応じたコミュニケーションを図ることができる。 2. 小児各期における身体的・精神的・社会的な成長・発達の特徴を理解できる。 3. 小児の健康障害の特徴を理解し、対象に応じた看護の実践を理解できる。 4. 小児を取り巻く多職種の連携の中で小児看護の役割について考える。 5. 看護学生としての自覚を持ち、責任ある行動をとることができる。 6. 実習を振り返り、自己の課題を明確にすることができる。				DPへの対応 DP1・2・3 DP1・2・3 DP1・2・3 DP1・2・3・5 DP4・6 DP4・6
概 要	保育所実習では、健康な小児の成長・発達の実際と発達段階に応じた関わり方について学ぶ。外来実習では、小児が受ける医療サービスの実際を小児特有の診療の補助技術について学ぶ。病棟実習では、小児各期の特徴を理解し、成長発達段階をふまえ健康障害のある小児の関わり方や必要な看護援助および家族を含めた支援について学ぶ。最後に、本実習をとおして、総合的に考える視点を学び、小児科領域における看護師の役割について考える機会である。				
方 法	臨地実習・学内実習				
実習場所	<保育所> 中央保育所・鶴見保育所・内蔵保育所 <外来> 鶴見病院・矢田こどもクリニック <病棟> 国立病院機構西別府病院・別府発達医療センター				
成績評価の基準と方法	基準：履修規定第29条に規定する評価基準に準ずる。 方法：別に評価項目を定め、それに沿って評価する。 60点以上が合格、60点未満は別紙に定めるとおり再実習を行う。				
使用教材	テキスト	医学書院 小児看護学概論、小児看護学各論			
	参考図書	ナーシング・グラフィカ 小児の発達と看護			
	その他	講義資料			
臨地実習以外の学習方法	事前学習をして実習に臨みましょう。				
履修上の留意点	学生の態度や学ぶ姿勢は小児に大きく影響します。常に心掛け行動しましょう。				

科目区分	専門分野	科目名	母性看護学実習	単 位	2単位
対象学年	3学年	学 期	前期	時 間	90時間
担当教員	貞清 瑞枝	実務経験 関連資格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	本実習は、ウェルネスの視点でマタニティサイクル期にある女性・新生児を受け持ち正常な妊娠・分娩・産褥期・新生児期の看護過程の展開を修得する。女性のライフイベントであるマタニティサイクル期における身体的・心理的・社会的変化及び胎児・新生児の生理的変化・成長について理解し、最適な生活支援を科学的根拠に基づいた安全で安楽な看護ケアを学ぶ。				
目 標	1. マタニティサイクル期にある対象者の特徴を踏まえ、援助的人間関係を構築することができる。 2. マタニティサイクル期にある対象者が妊娠・分娩・産褥期を正常な経過をたどり、最適な生活（Well-being）を目指した看護展開ができる。 3. 新生児が胎外生活に適応できるよう、健康な発育に向けた看護の方法が説明できる。 4. 子どもの誕生を受け入れるための家族支援方法が説明できる。 5. 母子とその家族の健全な育成支援に向けて、退院後の生活、継続看護の必要性、活用できる社会資源について説明できる 6. マタニティサイクルにある対象者の状態に適したセルフケアと健康支援ができる。 7. 医療チームの中で他職種と協調・協働する方法について理解し、看護職の母性看護の専門性について考察できる。 8. 生命の誕生と尊厳について理解を深めることができる。 9. 実習全体を振り返り、学びを整理し、課題を明らかにできる。				DPへの対応 DP1・5 DP3・5・1 DP1・3 DP1・3 DP1・4 DP1・5 DP4・5 DP5・6 DP5・6
概 要	1. 受け持ち褥婦・新生児の看護過程を展開する。 2. 母性看護の基本援助技術を理解し、一部実践する。				
方 法	臨地実習・学内実習				
実 習 場 所	国立病院機構別府医療センター あおい産婦人科 大分県立病院				
成績評価の基準と方法	基準：履修規定第29条に規定する評価基準に準ずる。 方法：別に評価項目を定め、それに沿って評価する。 60点以上が合格、60点未満は別紙に定めるとおり再実習を行う。				
使用教材	テキスト	実習要項、母性看護学概論、母性看護学各論、看護がみえる、国民衛生の動向			
	参考図書	母性看護学概論（医学書院）母性看護学各論（医学書院）看護がみえる 産科（メディカ出版）			
	その他	実習施設ごとに必要物品についてオリエンテーション時に説明する。			
臨地実習以外の学習方法	看護過程展開の記録は、病棟において受け持ちの情報収集・アセスメントを終了し、看護診断、看護計画の立案は自宅学習とする。母性看護の基本技術は、自己練習をして実習に臨む。				
履修上の留意点	欠席をする場合は、事前に実習担当教員へ理由をそえて欠席届を提出する。				

科目区分	専門分野	科目名	精神看護学実習	単 位	2単位
対象学年	3学年	学 期	前期	時 間	90時間
担当教員	芦刈 美佳 塩田 和泉	実務経験 関連資格	病院における看護師経験・別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	1. 受持ち患者とのかかわりを通して、患者理解及び自己理解を深め、治療的人間関係を構築する能力を養う。 2. 精神疾患を持つ人を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解すると共に、地域で生活する精神障害者支援の様々な場を知り、回復支援について学ぶ。				
目 標	<病院> 1. 対象者との出会いから相互作用を通して、看護者としての自分自身を振り返り、自己洞察を深めることで自己の課題を明確にし、患者－看護師関係を築き、発展させる。 2. 精神科医療における環境や法律・制度について理解できる。 3. 看護過程を展開し、看護について考えを深める。 4. 対象が生きていくために必要な社会資源を理解し、地域社会とのつながりについて考える。 5. 精神医療チームの一員としての看護の役割について説明できる。 <デイケア> 1. 精神科デイケアを利用しながら地域で暮らす人とかかわりを通して、精神疾患を持つ人の地域生活を理解する。 2. 地域で生活するために提供されているサービスの内容と、支援を行っている専門職の役割および連携を知る。				DP への対応  DP 1  DP 3 DP 2, 3 DP 2, 3, 4 DP 4, 5  DP 2, 3, 4 DP 3, 4, 5
概 要	<病棟> 統合失調症または双極性障害の患者を1名受持ち、オレムのセルフケア理論を用いて看護過程を展開する。 <デイケア> デイケア実習を通してチームケア（多職種連携）の必要性と看護師の役割を知る。				
方 法	臨地実習・学内実習				
実 習 場 所	山本病院・鶴見台病院・向井病院				
成績評価の基準と方法	基準：履修規定第29条に規定する評価基準に準ずる。 方法：別に評価項目を定め、それに沿って評価する。 60点以上が合格、60点未満は別紙に定めるとおり再実習を行う。				
使用教材	テキスト				
	参考図書				
	その他				
臨地実習以外の学習方法					
履修上の留意点					

科目区分	専門分野	科目名	統合実習	単 位	2単位
対象学年	3学年	学 期	後期	時 間	90時間
担当教員	服平 敏枝 安部 三枝子	実務経験 関連資格	病院における看護師経験・別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	看護の知識・技術・態度を統合し、看護チームの一員として看護を実践する基礎的能力を養う。				
目 標	1. 対象との人間関係を築くことができる。 2. 複数の対象の状況に応じ、根拠に基づいた看護の実践をすることができる。 1) 複数の対象の状況をアセスメントし、全体像をとらえる。 2) 複数の対象の状況に応じた看護計画を立案する。 3) 複数の対象の状況に応じた看護を安全安楽に実施する。 3. 病院における看護管理の実際、多職種との連携・協働の実際を知り、看護師の役割と責任を理解することができる。 4. 倫理観を養い、将来の看護師としての自己の課題を明確にすることができる。 5. 専門職業人としての基本的態度を認識し、身につけることができる。 1) 専門職業人としての態度が備わる。 2) 学習に臨む姿勢がある。 3) 倫理に基づいた行動をとる。 4) グループの一員として責任ある行動をとる。				DP への対応
					DP 1、2、4 DP 1、2、3、 4、6  DP 1、4、5 DP 4、6 DP 1～6
概 要	複数の対象の状況に応じ、根拠に基づいた看護の実践をするための基礎的能力を習得する。 看護管理の実際や多職種連携の実際をとおり、看護チームの一員として看護を実践するための基礎的能力を習得する。				
方 法	臨地実習				
実習場所	国立病院機構西別府病院 新別府病院 九州大学病院別府病院 中村病院				
成績評価の基準と方法		基準 : 履修規定第 29 条に規定する評価基準に準ずる。 方法 : 別に評価項目を定め、それに沿って評価する。 60 点以上が合格、60 点未満は別紙に定めるとおり再実習を行う。			
使用教材	テキスト				
	参考図書				
	その他				
臨地実習以外の学習方法					
履修上の留意点					



